小・中・特別支援学校職員の働き方に関する意識及び実態調査

― これからのワークライフバランスを考える ―

第８回教育調査報告書
（小学校・中学校・特別支援学校）

２０２０年６月

公益財団法人 新 潟 教 育 会
新 潟 教 育 研 究 所

刊行にあたって

働き方改革を確実に進める一助として

公益財団法人 新潟教育会
代表理事　**濱　中　力　也**

はじめに，新型コロナウイルス感染症の影響で平穏な生活が一変する中，必死に不安と向き合っている子供たちにたくさんの愛情を注ぎ，できる限りの環境を整えようとしている学校や行政等の関係の皆様に心より感謝を申し上げます。

さて，働き方改革に関わって，国は定数改善の標準法には手を入れず，変形労働時間の活用を中心として給特法を改正するなど，勤務時間の適正管理だけがクローズアップされているように感じられます。こうした改革に対して，「３Ｌの体型にMサイズの服は入らない」という現場の苦悩が届いてきます。多くの自治体や学校もガイドライン等を策定して具体化を進めていますが，教職員や子供たちの思いも大切にしながら，地域や保護者も巻き込んで，改革が一層進むことを願っています。

そこで，８回目となりました本教育調査は「働き方改革」をテーマとしました。働き方改革に関わる教職員の実態を調査・分析し，広く県民に周知すると共に，各学校や行政で改革を確実に進める参考になればと考えています。アンケートに回答いただいた教職員から「この調査を是非具体的な働き方改革につなげてほしい」という切実な声が多く，「早く帰れ」と言うだけの改革に留まっているのではないかという不満も聞かれました。

また，調査の自由記述欄では，教職の志望者が減少していることについて，様々な思いを記入していただきました。そこには，多忙な中にあっても，多くの教職員が喜びや誇り，生きがいを感じながら，必死に子供たちに寄り添っている姿が感じられました。

> 教職は，子供の成長に携わることのできる，尊く，責任ある仕事です。実際に目の前の子供の成長を感じることは，何にも例えようのないほどの喜びと感動の毎日です。現在，働き方改革で業務内容が見直されている最中にあり，今後よりよい環境で働くことができるようになると信じています。子供に寄り添える，志のある若者を待っています。

これまでの学校は，教職員のこうした熱意や愛情，「子供たちのため」という献身的な取組によって支えられてきました。それ自体は尊いことではありますが，教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え，効果的な教育活動を継続して行うことは喫緊の課題であります。働き方改革は，教職員の熱意や愛情を真に子供たちに注ぐための改革であり，教職員の生き方や在り方を問い直す改革です。この目的から外れないことを願っています。

終わりに，調査にご協力をいただきました皆様に心から感謝を申し上げます。

令和２年６月

提言１　積極的な人的資源管理（ヒューマンリソース・マネジメント）

学校の働き方改革で，一番要望されるのが増員です。しかし，定数改善が現実的には難しい中で，学校を取り巻く人的資源をどのように学校教育に組み入れていくか。各人的資源の特徴を理解して積極的に活用することが必要です。

○公的な人的資源=国や自治体が予算措置をして任用

① 特別支援教育支援員 …… 特別支援教育にかかる介助員
② 地域教育コーディネーター …… 地域と学校の連絡調整役
③ スクールサポートスタッフ …… 会議の準備や資料の印刷等
④ 部活動指導員 …… 部活動顧問，この他エキスパート事業，サポーター事業等様々
⑤ 学校事務支援員 …… 事務補助員
⑥ 学習支援ボランティア …… 学生ボランティアとして旅費助成

○地域の人的資源（無償ボランティア）

① 学校支援のNPO団体 …… 授業補助，ゲストティーチャー
② 保護者・地域ボランティア …… 掲示物の整理，教材の作成，清掃等
③ 登下校の見守り隊

○専門職としての人的資源

① スクールロイヤー …… 法律相談，保護者対応
② スクールカウンセラー …… 教育相談
③ スクールソーシャルワーカー …… 教育相談や家庭支援
④ 特別支援教育サポートセンター等 …… 就学相談
⑤ 福祉部局や警察機関等 …… 一時保護，非行防止相談

提言２　保護者や地域住民との交流・連携による教育活動の円滑化

多くの保護者や地域住民は，学校のことを全面的に信頼できるかといえば，少し難しいというのが本音です。しかしながら，保護者や地域住民の中には子供たちの役に立ちたい，学校での子供の様子を知りたい，もっと学校に関わりたいと思っている人も少なからずいます。そうした思いや願いを生かし切れているかを具体的に見つめ直し，保護者や地域住民との交流・連携を促進していくことが必要です。

一方で，トラブルが発生したときに，コミュニケーションのギャップを生まない丁寧な保護者や地域住民への対応の重要性について，全職員で共通理解するとともに，こうした対応の基礎・基本について，教職員間の確認や研修が必要です。「チーム学校」のチームとは，保護者や地域住民も含んでいることを共に自覚することが大切です。

提言３　一層の業務の効率化・最適化

校務支援システムの導入やICTの活用などにより，業務の効率化に向けた取組が加速しています。併せて，会議の工夫改善も必要で，メンバー，時間，時間帯，資料等会議の目的に照らして見直しにより，一層の業務の効率化・最適化が必要です。また，教育活動の見直しに当たっては，保護者や地域住民，できれば子供も含めた全体の総意の中で行い，教育活動のねらいの達成に向けたよりよい方向性を探っていくことが大切です。

次のように，業務の効率化・最適化を図ってほしいと考えます。

○教材等の有効な教育情報の蓄積・整理・交流

① 校務支援システム等の活用のよる事務処理の簡略化

② 学習指導案やワークシート等の保管・活用による授業準備時間の短縮

③ 共有フォルダの整理とフォルダツリーの統一

○会議の工夫・改善

① ICTの活用により朝会等を効率化

② 資料の事前配付，変更点や結論とその理由により会議時間を短縮

③ PTA・地域関係会議を勤務時間内に設定

④ 個々の意見が可視化されるボトムアップの機会の確保

○教育活動の最適化

① 学校行事や教育活動の単なる休止や廃止でなく，目的に照らした最適化も検討

② 部活動ガイドライン等による申し合わせの順守や部活動数の削減等について自治体リーダーシップの発揮

③ 地域行事への参加体制の充実や役割分担など，コミュニティ協議会などの地域組織と融合した取組の展開

提言４　学校全体の心理的安全性の確保

心理的安全性は成功するチームの構築に最も重要です。心理的安全性とは，「他者の反応に怯えたり羞恥心を感じたりすることなく，自然体の自分をさらけ出すことのできる環境や雰囲気」を指します。管理職が中心となってトップダウンで「働き方改革」を推進するだけではなく，ボトムアップで当事者意識や協働性・同僚性を醸成し，働きやすい学校をみんなでつくることが必要です。

また，失敗が許される職員集団の雰囲気も重要です。ファシリテーションを活用し，個々の考えをアウトプットさせながらチーム力を強化して，全員が働き方改革の神輿（みこし）を担ぐ風土や学校文化の構築が大切です。本当に力のある学校とは，新しいことに挑戦できる学校であり，「やっても無駄」など，ネガティブな言葉に支配されている学校はワンチームになることはできません。また，学校の中で一息つける空間づくり（場所・時間など）も大切です。

提言５　行政の役割や行政研修・自主研修の見直し

教育は未来への投資です。働き方改革の促進には基盤となる定数改善が重要です。各自治体・教育委員会は，標準法改正に関わって国へ強く働きかけ続けるとともに，県や市町村単独での地域の実情に応じた多様な人的措置の充実が必要です。

また，研修は教職員の使命であり，時代の変化に応じて学び続けることが重要です。一方で，負担過重な部分は軽減していく工夫も大切です。新潟県・新潟市では教育センターで実施する研修の日数や内容の見直しの他，研修の重なりの確認，テレビ会議システムの活用等により受講者の負担軽減策を実施しています。今後，新型コロナウイルス感染症の対応を進める中で，ICT環境を活用した研修や会議を拡大していくことが予想されます。自主研修についても，これまでの質を担保しつつ，全体のバランスや個々のニーズに応じて見直しや負担軽減を図っていくことが重要です。

目　　次

刊行にあたって……1

提　　言……2

Ⅰ章　調査の概要……5

1　調査の趣旨

2　調査対象および人数

3　調査の時期

4　調査の観点および調査項目

5　調査方法

Ⅱ章　調査の集計結果と考察……9

1　回答者の年代，性別，勤務校，役職，校務分掌について

2「働き方改革」として，回答者の学校で，現在取り組んでいること

（1）学校業務の側面から

（2）チーム体制の側面から

（3）教職員の意識改革の側面から

3　文部科学省の緊急対策の中の「業務の役割分担」について

（1）回答者は認識しているか

（2）学校の現状はどうか

①　基本的には学校が担うべき業務

②　学校の業務だが，必ずしも教師が担う必要のない業務

③　教師の業務だが，負担軽減が可能な業務

4　年次有給休暇の実際の取得日数や取得の様子について

5　回答者が，日々の生活の質や教員人生が豊かだと感じているか

6　回答者が行っているストレスケアについて

7　教員志願者が減少していることを，回答者はどう考えているか。

Ⅲ章　調査を終えて……29

Ⅳ章　アンケート調査用紙……33

Ⅰ章　調査の概要

Ⅰ章　調査の概要

1　調査の趣旨

2013年OECD国際教員指導環境調査に日本が参加し，翌年2014年に公表された調査結果によって，日本の教員の一週間あたりの勤務時間が参加国平均の38時間を大幅に上回る54時間であることが分かり，「日本の先生は世界一忙しい」と大きな話題となった。このことから，2016年に10年ぶりの「教員勤務実態調査」が行われた。ちなみに，初めての「教員勤務実態調査」は，教員給与の見直しに向けたデータ構築のために，2006年に行われている。

この調査結果で，小学校教諭は平日43分・土日49分，中学校教諭は平日32分・土日１時間49分の勤務時間増加が分かった。また，一週間あたりの学内総勤務時間については，小中学校では全体の約３割以上の教諭が過労死ラインと言われる月80時間の時間外労働をしていることも分かった。

原因は，「総授業時間時数の増加」「中学校における部活動指導時間の増加」「若手教員の増加」などにあることが指摘されている。

この厳しい結果を受け，文部科学省は2017年に「学校における働き方改革に関する緊急対策」による具体的な取組を開始した。2019年には「新しい時代の教育に向けた持続可能な学習指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」が発表された。

果たして，この取組が現場に着実に浸透しているのだろうか。

我々の教育調査は，勤務時間の適正管理だけではなく，現場の先生方が大切にしている「教師でなければできない仕事」を，どのように見直していったらいいのかに主眼を置いた。子どもたちの健やかな成長は，私たち教師の心身の健康なしではあり得ない。

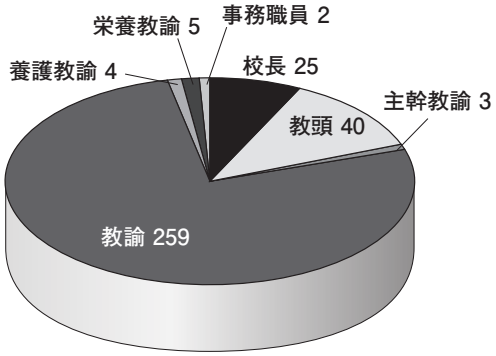
生徒指導では，何かことが起きると，まずは，実態調査から入る。先生方の何が現実で，何が困難で，そんな中でも何が潤いで何が喜びなのか。

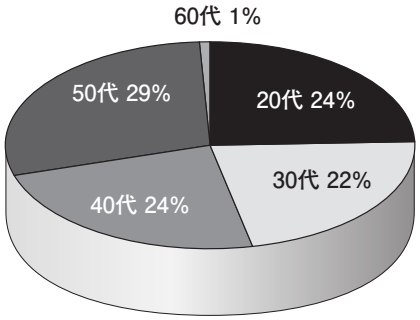
また，若い教師や，これから教師を目指す人たちへの思いも，苦言やエールを含めて，忌憚なく記述してほしいと回答をお願いした。

2　調査対象および調査人数

新潟県内の小学校・中学校・特別支援学校に勤務する，校長・教頭・主幹教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭・事務職員，合計410名。

なお，抽出にあたっては，学校規模・年齢・性別を考慮した。





3　調査の時期

令和元年７月23日～令和元年８月31日

4　調査の観点および調査項目

（1）調査の観点

① 「働き方改革」として現在取り組んでいることを，学校業務の側面，チーム体制の側面，教職員の意識改革の側面の３点。また，学校業務の側面とチーム体制の側面は，それぞれ県・市町村全体と学校独自に分けた。

② 平成29年12月26日文部科学大臣決定「学校における働き方改革に関する緊急対策」について，認識しているかどうか。

③ 年次有給休暇の取得しやすさと取得しにくさ。

④ 自分自身の日々の生活の豊かさを実感しているかどうか。

⑤ 教員志願者が減少している昨今をどう考えているか。

（2）調査項目

質問項目については，Ⅳ章を参照。

5　調査方法

（1）郵送による質問紙調査

依頼する学校の校長に質問紙・返信用封筒を送付し，任意に抽出した該当教職員に趣旨を説明の上，直接手渡してもらった。返信の際は，校名・住所・氏名の記載は不要とした。

（2）回答は選択方式

質問の回答は，最後の一項目を除いて，全て選択方式である。なお，質問によっては，単数選択と複数選択の場合がある。

Ⅱ章　調査の集計結果と考察

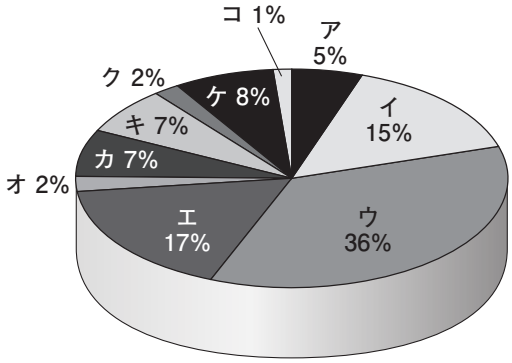
Ⅱ章　調査の集計結果と考察

Ⅰ　あなたの「年代」,「性別」,「勤務校」,「役職」,「校務分掌」についてお聞きします。

Ⅱ　「働き方改革」として，あなたの学校で,」現在取り組んでいることを聞かせてください。

1　学校業務の側面

①　県・市町村全体で取り組んでいること

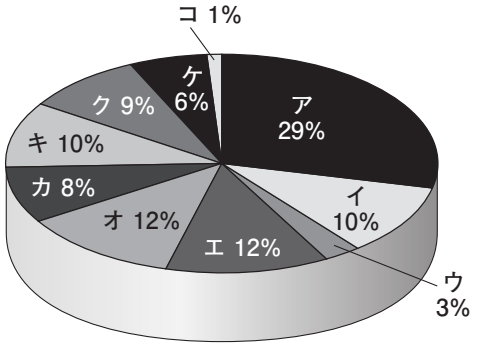


ア　勤務時間外の留守番電話の設定
イ　部活動休養日の設定
ウ　夏季・冬季の学校閉庁日の設定
エ　長期休業中・週休日の緊急連絡窓口（教委・管理職等）の設定
オ　学力・学習状況調査に係る業務の一部外部委託
カ　打ち合わせ・会議などでのＩＣＴ活用の促進
キ　市町村主催行事や学校行事等のあり方検討
ク　市町村全体の研究活動のあり方検討
ケ　校内研修効率化の呼びかけ
コ　その他（　　）

ウ「夏季・冬季の学校閉庁日の設定」エ「長期休業中・週休日の緊急連絡窓口（教委・管理職等)」イ「部活動休養日の設定」の三つの取組が役７割を占める。即効的に可能なこととして当然であろう。

ケ「校内研修の効率化」が学校独自の取組とほぼ同じ割合である。教育現場での研修の重要性という点からみると，ここがどのように効率化されているのか気になるところである。

②　学校独自で取り組んでいること



ア　出退勤時刻の把握（出勤簿・タイムカード・パソコン・その他）
イ　学校日誌・旅行命令簿等のＩＴ化
ウ　勤務時間外の留守番電話の実施
エ　長期休業中・週休日の緊急連絡窓口（教委・管理職等）の実施
オ　職員の連絡先を公表しない
カ　ノー残業デーの実施
キ　部活動休養日の実施
ク　校内研修効率化の実施
ケ　打ち合わせ・会議などでのＩＣＴ活用の実施
コ　その他（　　）

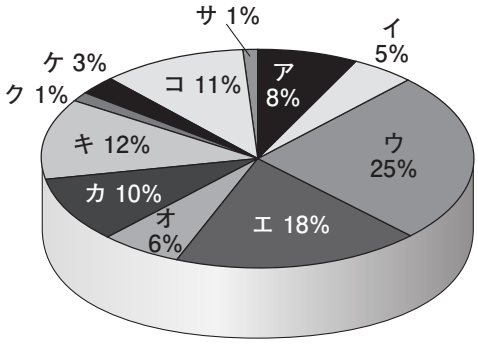
ア「出退勤時刻の把握」が３割近くを占め，他は突出している項目がない。また，ア・エ・オの合計が半数を超えた。

学校独自という問いから，その他の欄への以下のような記述が多くあった。

「家庭訪問や通知表の見直し」
「事務処理日の設定」
「業務改善アイデアポストの設置」

２　チーム体制の側面

①　県・市町村全体で取り組んでいること



ア　部活動指導員
イ　理科支援員
ウ　学校カウンセラー
エ　学校司書
オ　スクールサポーター
カ　学習支援ボランティア
キ　特別支援対応支援員
ク　保健室支援員
ケ　日本語指導者
コ　地域教育コーディネーター
サ　その他(　　)

ウ「学校カウンセラー」が最も多く，児童生徒の心の側面をサポートすることに重点を置いていることが窺える。

今後も手厚くなることが予想される。また，地域によって名称の違いはあるだろうが，学校と地域のパイプ役として，コ「地域教育コーディネーター」の役割はますます増えていくと考えられる。

生徒指導の側面から，スクールサポーターをもっと有効活用する方法はないものだろうか。

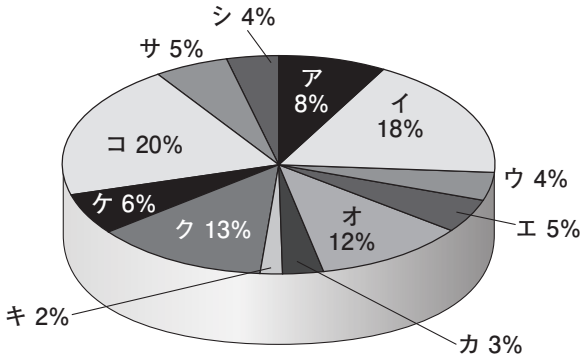
まだ設置のない市町村で，ぜひ，検討していただきたい取組として，下記の３つがある。

「就学促進コーディネーター」

「英語専科加配」

「学校事務支援員」

②　学校独自で取り組んでいること



ア　小学校高学年における一部教科担任制の導入
イ　学習ボランティアの活用（学習面の支援者）
ウ　学習ボランティアの活用（生活面の支援者）
エ　学習ボランティアの活用
　　（学習面と生活面両方の支援者）
オ　学生ボランティアの活用
カ　保健室ボランティアの活用
キ　日本語ボランティアの活用
ク　図書館ボランティアの活用
ケ　部活動指導ボランティアの活用
コ　地域教育コーディネーター
サ　教員サポートの活用
　　（例えば新潟市では「スマイルウインズ」）
シ　その他（　　）

イ「学習ボランティア」オ「学生ボランティア」ク「図書館ボランティア」コ「地域教育コーディネーター」の活用を多くの学校が行っている。

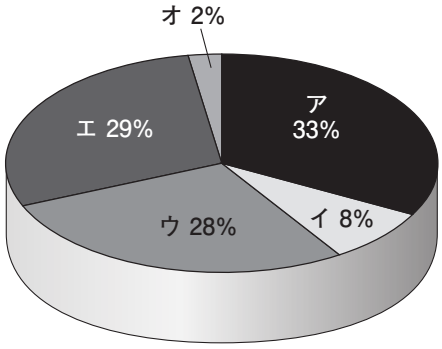
ク「図書館ボランティア」は，蔵書のデータベース化を，さらに進める上でも，必要な取組であろう。また，オ「学生ボランティア」は，学校側にとっても学生側にとっても有益である。特に，将来教員を目指す学生にとっては，そのための勉強の好機であるとともに，採用試験においても必ず問われる経験として有効である。

学校によっては，「高学年の一部教科担任制」を取り入れている。以前から行われている「交換授業」も含まれている。「平成30年度新潟県教科等の担任制の実施状況」を見ると，突出しているのは３年生～６年生の「理科」で，356校中半数以上の学校で実施している。次が「音楽」で，半数近くで実施している。「書写」は，全学年で３割ほどが実施している。新潟市106校でも，５・６年生の「理科」と「音楽」で半数ほどの実施状況が見られる。小学校では，外国語の教科化に伴い，今後一層取組が進められることを期待する。

なお，国際化が進む中で，帰国子女や外国人の子どもたちに対する「日本語ボランティア」も重要な位置を占めている。

その他では，「登下校ボランティア」や「保護者ボランティア」があげられていたが，これらは，さらに活用されるべきであろう。

３　教職員の意識改革の側面から



ア　「働き方改革」についての学校経営方針への位置付け
イ　「働き方改革」に関する研修
　　（内容：　　）
ウ　年休取得の推進
　　（方法：　　）
エ　メンタルヘルスセルフチェックの実施
オ　その他（　　）

ア「学校経営方針への位置付け」は当然のことであろう。ウ「年休取得」エ「メンタルセルフチェック」この３つは，ほぼ同数で，かなり取組が進んでいると考えられる。

「働き方改革に関する研修内容」では，多くの考えが記述されていた。
例えば，「なくすを増やす研修」などの記述があり，何となく想像できるが，どんな話し合いが展開されたのだろうか。また，「休養の取り方，年休取得推進についての説明」など，全教職員で共通理解しておくことも必要であろう。

その他，以下の内容に注目した。

「面談での確認」

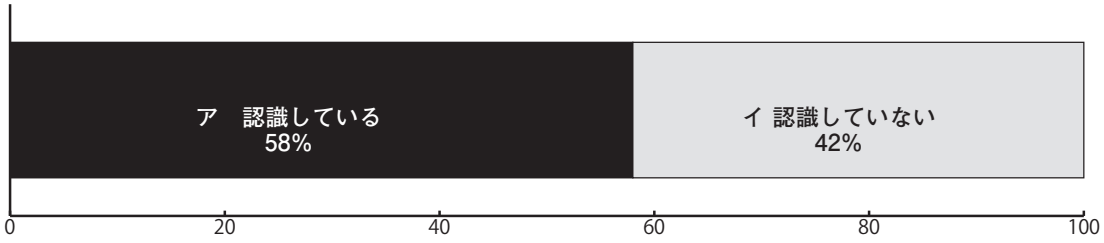
「日常会話での情報交換」

「学校運営委員会での話し合い」

これらは，「Face to Face」。いわゆる人間と人間の会話によって成り立ち，体温が伝わってくる。管理職が，「頑張って仕事をしたことを分かってくれている」という精神的な支えが大きいのではないだろうか。

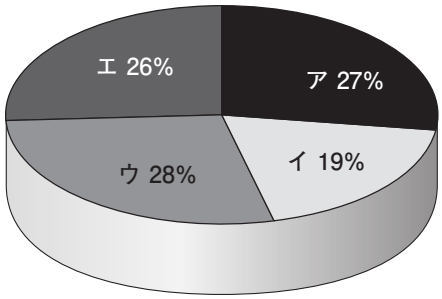
Ⅲ　業務の役割分担を認識していますか。

1　認識しているかどうか？



イ「認識していない」の42%が気になる。昨今の情勢から，全職員に熟知させる必要があると考えるが，学校では実際どうなのだろう。目の前の業務で精一杯の学級担任，教科担任には，管理職からの情報発信が必要ではないだろうか。

2　あなたの学校で担っている業務は？



ア　登下校時の安全に関する対応
イ　放課後から夜間における見回り，児童生徒が補導された時の対応
ウ　学校徴収金の徴収・管理
エ　地域ボランティアとの連絡調整

文部科学省から示された基本的には学校以外が担うべき業務であるこの４点に関しては，どれが突出しているわけではない。むしろ，どうして学校がこの業務を担わなければならなくなったのか再考する必要がある。学校がやらなければならない理由があるのだろうか。

3　学校以外としたら，どこが担っているか？

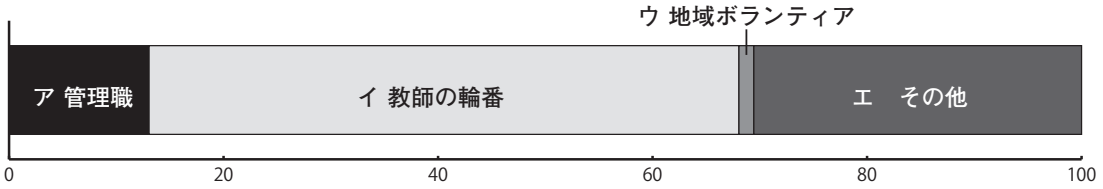
ア　登下校　　スクールガードリーダー　セーフティースタッフ
イ　放課後～　　警察　地域防災協会
ウ　お金の管理　　事務職員　金融機関
エ　連絡調整　　地域教育コーディネーター　学校応援団

特に，エ連絡調整は，「地域と共に子どもたちを育てる」という意識をさらに強くするために，任すところは任せて，学校側が「主」ではなく「従」になることも大切ではないか。

4　必ずしも教師が担う必要のない業務は，どこが担っているか？

①　調査・統計等への回答等

②　児童生徒の休み時間における対応



その他は学級担任，全職員，級外，介助員，支援員，生活指導，養護教諭等

③　校内清掃

④　部活動

その他は市からの補助員，外部講師，地域の社会体育団体等

必ずしも教師が担う必要のない業務とされた校内清掃については，自分たちが使った教室を清掃することは当然である。ただ，児童生徒の手に余る場所，例えば，トイレや水回り，特別教室などは，予算面の問題もあるだろうが，外部やボランティアに委ねることも可能ではないだろうか。

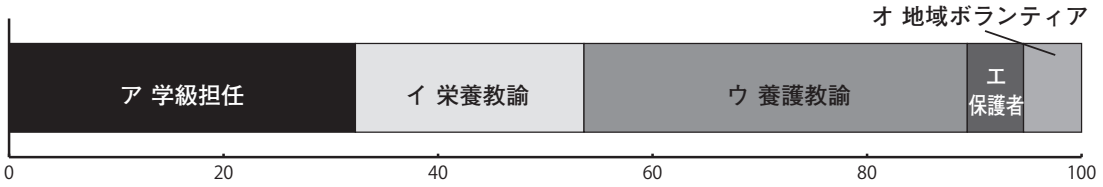
部活動は，部活動指導員が配置されるようになったが十分でない。
今後，さらに拡大されると共に，外部指導員の活用や社会体育への移行も進めていく必要があるのではないか。

5　負担軽減が可能な業務は，どこが担っているか？

①　給食時の対応

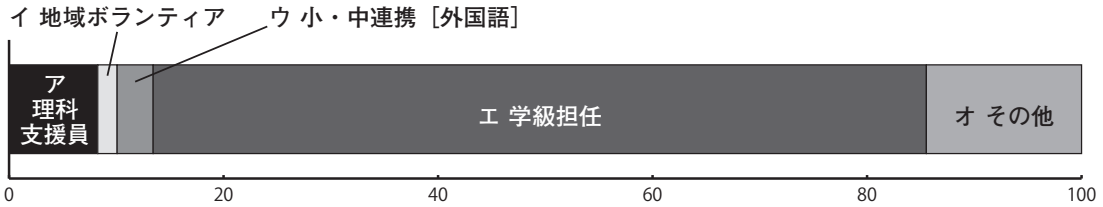
その他は，養護教諭，学年で輪番，スクールアシスト，副担任，級外，管理職，支援員等

②　アレルギーチェック



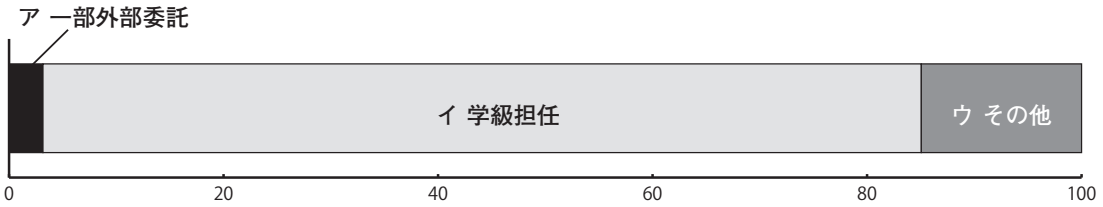
その他は，管理職，級外，検食担当，学年主任，全職員，調理員，介助員，給食主任，教頭等

③　授業準備



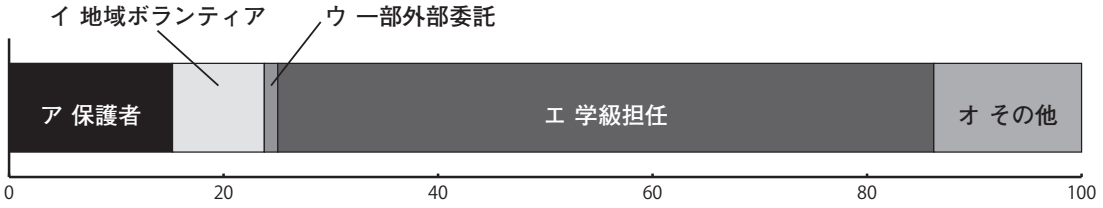
その他は，教科担当（中学校），教務・教頭，級外，英語専科，JTL（外国語），ALT等

④　学習評価や成績処理



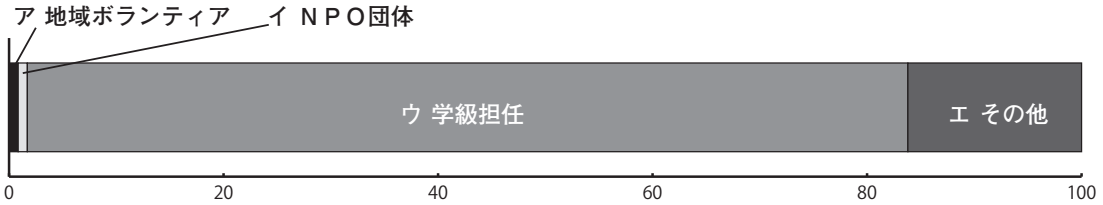
その他は，教科担当（中学校），教務・教頭，授業担当，級外等

⑤　学校行事の準備・運営



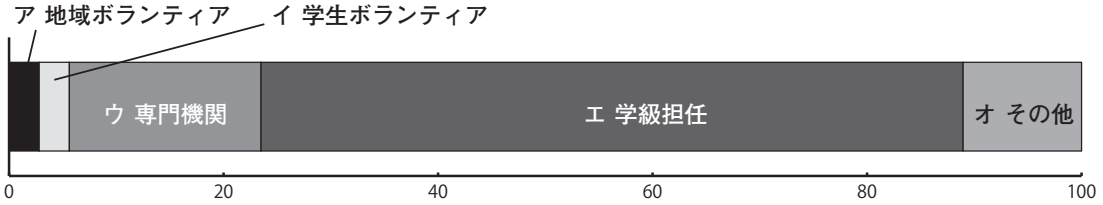
その他は，全職員，担当職員，管理職，生徒・全職員，職員分担，級外，教務，行事委員会，一部保護者等

⑥　進路指導



その他は，進路指導担当，３学年部（中学校），管理職，学年主任，全職員，級外等

⑦　支援が必要な児童生徒・家庭への対応

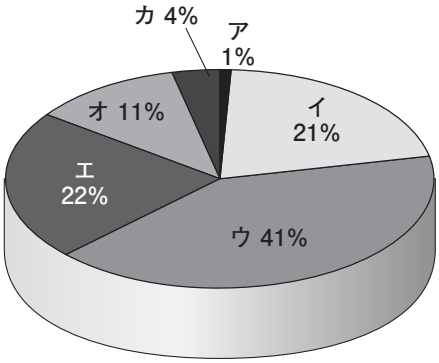


その他は，特別支援教育担当，級外，支援員，管理職，養護教諭，教科担当，関係職員，ソーシャルワーカー，教育委員会，特別支援コーディネーター，介助員，適応委員会，生徒指導加配等

これらの教師の業務だが，負担軽減が可能な業務について，学級担任が中心となるのは理解できる。しかし，どこかの時点で「確実な支援」をしてくれれば，担任の業務がかなり軽減できるのではないか。例えば，アレルギーチェックは，親子で献立表をチェックし，親子でしっかり確認できていれば，担任の負担感はかなり減る。また，行事の準備・運営準備など，大勢の保護者の中には，イベントのようなものにプロ級の人が必ず存在する。思い切って募り託してみたらどうだろうか。逆にマンネリから脱却できるかもしれない。この際，「何でも教職員がやらなければ」という考えから抜け出す必要がある。

Ⅳ　年次有給休暇について聞かせてください。

1　年休の取得日数は？



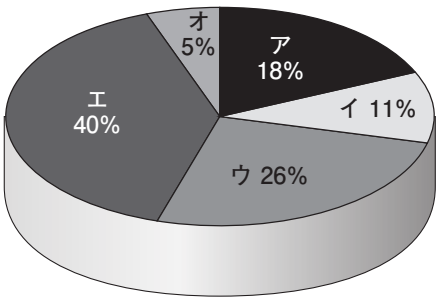
ア　０日
イ　１～５日
ウ　６～10日
エ　10～15日
オ　16～20日
カ　20日以上

圧倒的多数は「６～10日」である。月平均１日にも満たない。長期休業中は「取得しやすい」としているので，授業日の年休は取得しにくいと推察できる。

2　年休を取得しやすいかどうか？

８割近くが「取得しにくい」と感じている。ここまで割合が高いと，「取得しやすい」と「取得しにくい」との違いは何なのかを考える必要がある。

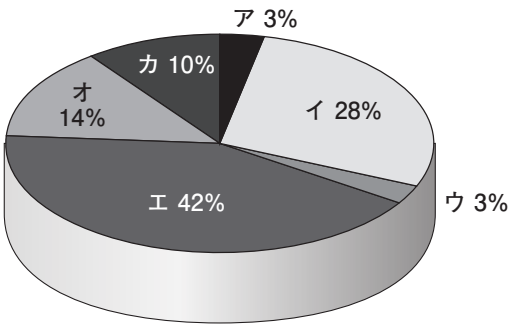
3　年休を取得しやすい理由は？



ア　管理職が日常的に年休取得を促している。
イ　担任している学級が空きにならないようなシステムがある。
ウ　校内の協力体制（自習監督等）ができている。
エ　校内に「お互い様」「助け合う」雰囲気がある。
オ　その他（　　）

エ「校内に『お互い様』『助け合う』雰囲気がある」が最多の４割。管理職の理解や校内の協力体制を加えると８割にも上る。このような職場なら，教職員は働きがいや，働きやすさを感じるのではないか。

4　年休を取得しにくい理由は？



ア　管理職に言い出しにくい雰囲気がある。
イ　担任している学級が留守になる不安がある。
ウ　校内に「お互い様」「助け合う」雰囲気がない。
エ　迷惑をかけたくない。
オ　他の職員があまり取得していない。
カ　その他（　　）

「迷惑をかけたくない」が４割強で，新潟県の教職員の真面目な性格の表れと考えられる。次に，学級を留守にする不安が３割弱で，昨今の生徒指導問題の低年齢化により，小学校の下学年からの学級崩壊が発生している影響もあるのだろうか。

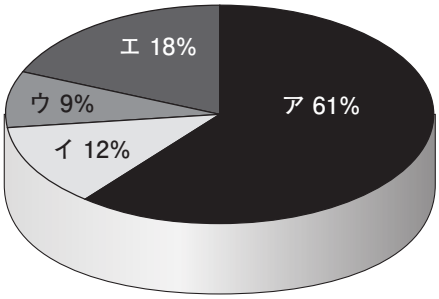
わずか３％だが，「校内に『お互い様』『助け合う』雰囲気がない」には，そのような職場で勤務する教職員がいることに当惑せざるを得ない。

その他の記述で，「学習の進度が心配」，「休むための準備が大変」とあり，教職員の責任感の強さが感じられる。

5　長期休業日に年休を取得しやすいかどうか？

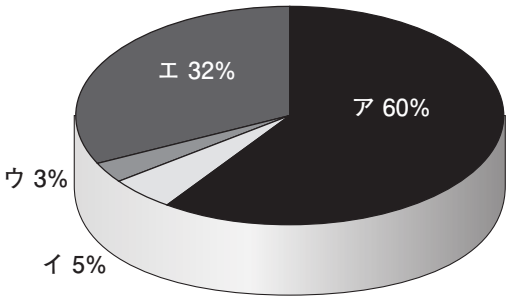
８割弱が「取得しやすい」と感じている。

6　年休を取得しやすい理由は？



ア　研修や会議が精選されている。
イ　管理職が自ら年休取得モデルとなっている。
ウ　学校の「長期休業の意義」について，保護者や地域への説明や広報が確実になされている。
エ　その他（　　）

7　年休を取得しにくい理由は？



ア　研修や会議がある。
イ　管理職に言い出しにくい雰囲気がある。
ウ　保護者や地域からの理解が得られていない。
エ　その他（　　）

取得しやすい理由と年休を取得しにくい理由が，ともに「研修や会議」の精選であり，割合も６割と同率である。研修や会議が精選されているから年休を取得しやすい。研修や会議が計画されているから年休を取得しにくい。取組の方向は明確である。

子どもたちへの教育活動は，日々刻々と変化していくものであるが，極力，年間計画を立てる教職員が認識する必要がある。しかしながら，計画以外のものが突然入ってくるのは悩ましい現状である。

Ⅴ　日々の生活の質や教員人生が豊かだと感じていますか。

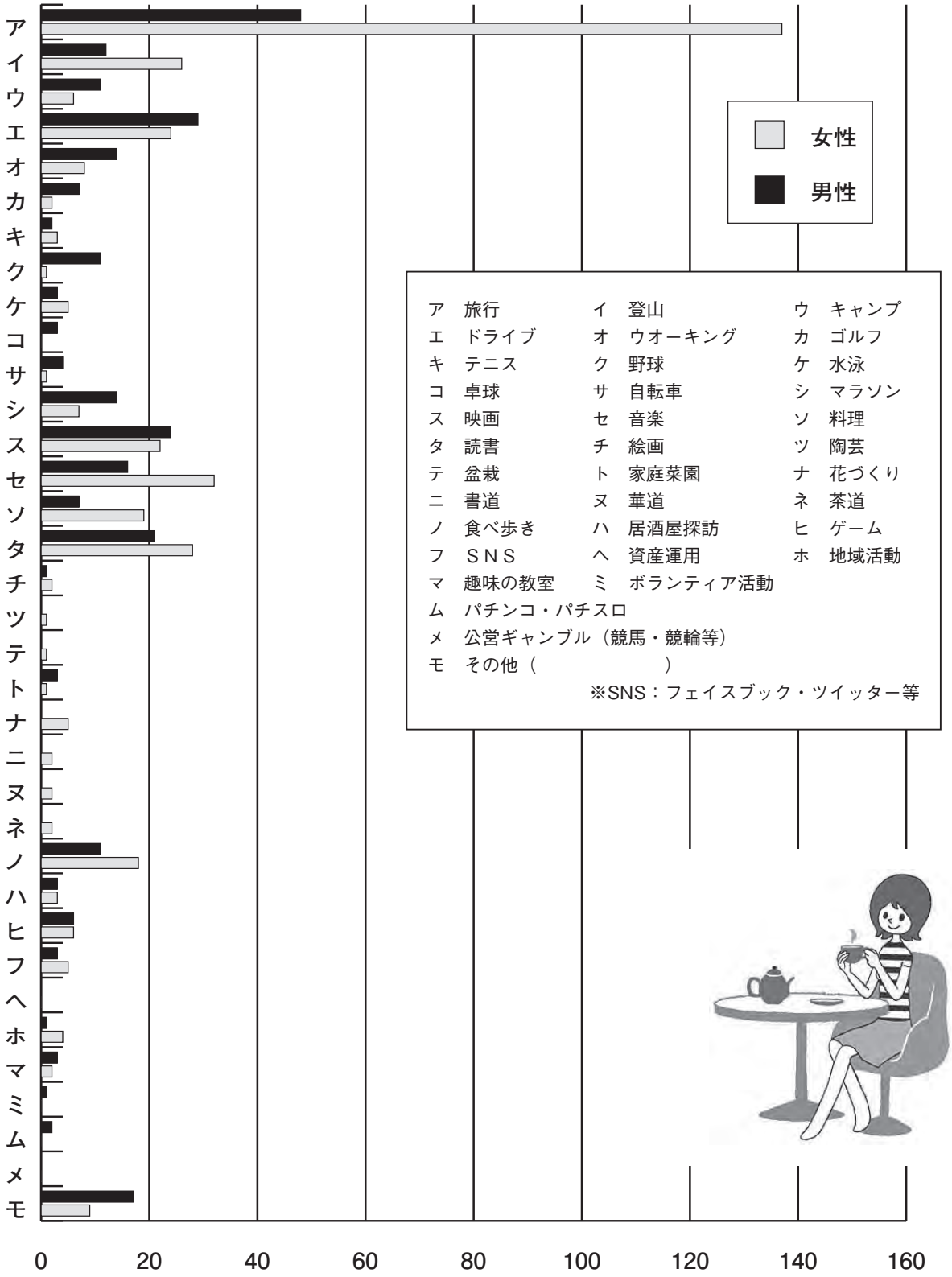
1　感じているかいないか？

豊かだと感じているは６割強であるが，１/３強が感じていないのが気がかりである。

2　感じている人は，何かに取り組んでいるかいないか？

豊かだと感じているが，何も取り組んでいないが２割弱であり，何かに取り組むことが大切である。

3　取り組んでいる人は，何に取り組んでいるか？（実数）



複数回答なので，幾つものことに取り組んでいる人，一つのことに打ち込んでいる人様々である。

男女ともに「旅行」が最も多い。そして，女性は男性の３倍もの人が「旅行」を楽しんでいる。これは，女性が夫婦での旅行よりも，友達同士仲間同士での旅行を楽しんでいる表れだろうか。

女性は，その後に，「音楽」「読書」「登山」「ドライブ」「映画」「料理」と続く。

男性は，「ドライブ」「映画」「読書」「音楽」「マラソン」「ウオーキング」と続く。

その他では，育児・子育て，家族サービスという「ホーム型」，ジョギング，ヨガ，釣りという「ホビー型」，自主研修，資格取得，ボランティア活動という「自己向上型」，動物飼育という「癒やし型」の回答があった。

4　取り組んでいない人の理由は？

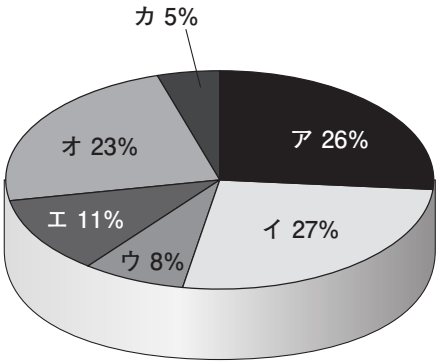
その他は，日々に満足できる，仕事が楽しい，家族でゆったり楽しむ，子育て中，余暇を楽しむ，部活が楽しい等

何もしないことを楽しんでいるが半数であった。

残りの半数の中に，仕事が楽しい，部活動が楽しいという，ある意味，教員の鏡のような回答もみられた。

双方とも，教職員としての職務が充実していることと受け止めたい。

5　感じていない人の理由は？



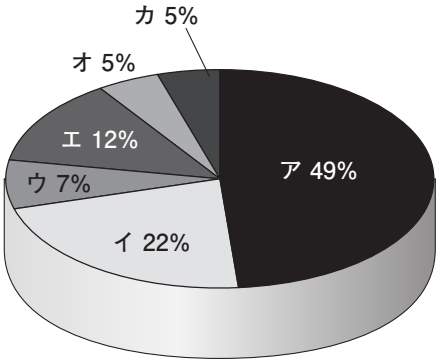
ア　時間がなくて何もできない。
イ　仕事で疲れ切って何をする気もおこらない。
ウ　家族の介護などで時間をとられる。
エ　やるための金銭的な余裕がない。
オ　やるための精神的な余裕がない。
カ　その他（　　）

豊かさは感じていないという回答では，ア「時間が無い」イ「疲れて何をする気もおこらない」オ「精神的余裕が無い」の３つがそれぞれ３割弱ずつであった。

「出産･育児に伴う校務分掌の配慮が無い」という子育て世代には切実な悩みがカ「その他」にあった。男女ともに同額賃金という教員の現場で，育児世代とそうでない世代が，どこに折り合いを付けていけばいいのか。やはり，管理職の考え方や姿勢によるところが大きいのではないだろうか。

Ⅵ　ストレスケアのためにやっていることがありますか。

1　学校でやっていることは何か？



ア　同僚などと会話をする。
イ　仕事の合間に一服する時間をもつ。
ウ　机周りに自分の趣味の小物を置く。
エ　余裕のないときは「断る」勇気をもつ。
オ　休憩時間を有効に使う。（散歩・仮眠等）
カ　その他（　　）

ア「同僚などと会話をする」が49%，イ「仕事の合間に一服する時間をもつ」が22%と，約７割がストレスケアをしている。それも，同僚と・・・という人間関係の中でストレスケアできるのは，きっと，職場環境に恵まれているのだろう。

カその他に，「管理職に意見を述べる」という回答があった。私たち教職員は，まず，「子どもにとってどうか」と常に考えている。きっと，この回答をしてくれた人は，新しい風を吹き入れてくれたり，建設的な意見を述べてくれたりしているのだろう。

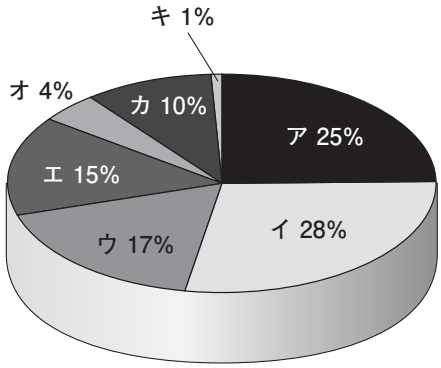
また，「早めに帰宅する」とか「メリハリを付ける」という回答もあり，教職員が遠慮無くON・OFFの切換えを日常的に行える雰囲気作りが大切である。

2　学校でやっていない理由は何か？

イ「自分のために使う時間が無い」とウ「気持ち的にゆとりが無い」の合計が約８割である。

私は，若い頃，ある大先輩にこんなことを言われた。「やらなければならないことが押し寄せてきたら，手詰まりを感じたら，まず，お茶を一杯飲め。ゆっくりと一杯を飲み干すうちに，焦っていた心が落ち着いてくる。慌ててやったって，何もいいことはないぞ。」若い私は，「そんなことしていたら間に合わない。」と心の中で呟いていたことを思い出す。でも，年を重ねるうちに，そのことの大切さが分かった。若い先生方にお勧めしたい。

3　家庭でやっていることは何か？



ア　生活のリズムを整えている。
（食生活，睡眠時間等）
イ　家族や友人との会話。
ウ　ランチや飲み会を行う。
エ　自分優先の日をつくり，やりたいことをやる。
オ　動物飼育。
カ　趣味（　　）
＊具体的に記入してください。
キ　その他（　　）

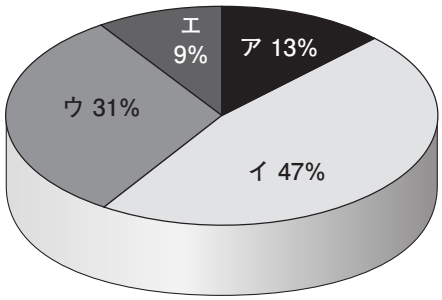
イ「家族や友人との会話」ア「生活のリズムを整えている」ウ「ランチや飲み会を行う」この３つがほぼ同数で，合計約６割強である。

自分の心身を充電してくれる家庭生活は，やはり，何物にも代えがたい。

特に目がとまったのは，「自分優先の日をつくり，やりたいことをやる」で，15%。これは，非常に大切なことではないだろうか。学校でほぼ全力を出し切り，家庭では家事・育児，もしかしたら介護もあるかもしれない。そんな中で，家族の理解のもと，「えいっ。やあっ。」と思い切り，自分のことを最優先するのは，精神衛生上望ましいと考える。

キその他では，「断捨離」という回答があった。これは，人生設計の中で，今，注目されていることではないだろうか。「断捨離」が上手くいったら，すっきりするだろう。

4　家庭でやっていない理由は何か？



ア　特にストレスを感じていない。
イ　自分のために使う時間がない。
ウ　気持ちにゆとりがない。
エ　その他（　　）

イ「自分のために使う時間がない」とウ「気持ち的にゆとりがない」で，約８割。学校で特にやっていないとほぼ同数である。

エその他の，「現状に妥協」というのも気になるが，「悩みを相談できる人がいない」という回答には，大変驚いている。

Ⅶ　教員志願者が減少している昨今を，あなたはどう考えますか。（自由記述）

○圧倒的に多かった記述例

★教職のやりがいについて発信したい。自分が教職を目指したのは，憧れる教師との出会いがあったことが大きい。感動できるこの仕事に就きたいと思った。今の子供たちに私たちと接することで，教職っていいなと思えるような教育活動をしていかなければと常々感じている。

★故郷である新潟の子供たちや未来のために働けることは幸せ。志願者の減少の理由を探すより，改善すべき点について意識を持って「働きやすい環境」づくりに尽力したい。若い人たちには，この仕事の素晴らしさ（苦労やがまんも多い分，喜びや達成感も大きい）を折に触れて伝えていきたい。

★教職は，自分を成長させられる仕事。日々の自分の工夫が，子供の表情や言動となって返ってくる。そのやりがいが更なる意欲につながる。責任の重い仕事であるが個人で背負う必要は無い。収入の安定や長期休業も魅力。自分の仕事が未来の日本をつくると実感できる仕事。

★学校現場は人と深く関わり，時に悔しい思いや辛い思いをすることも多々ある。しかし，子供たちが見せてくれる「分かった！」表情や行事等をやり遂げたときの笑顔，部活動等の努力の成果を目の当たりにすれば，この世界（職場）で子供たちを輝かせたいと思えるはず。若者の専門性と知識を次代に生かしてほしい。

★学校が大変なことが多いのは事実。しかし，子供と共に汗をかき，笑い，泣き。大人になってからもこんなに喜怒哀楽のある仕事は他にない。毎年たくさんの子供と出会い，その人数は数え切れないはずだが，何年経っても子供の顔や当時の出来事をよく覚えているのは，それだけ充実した時間を過ごせているから。

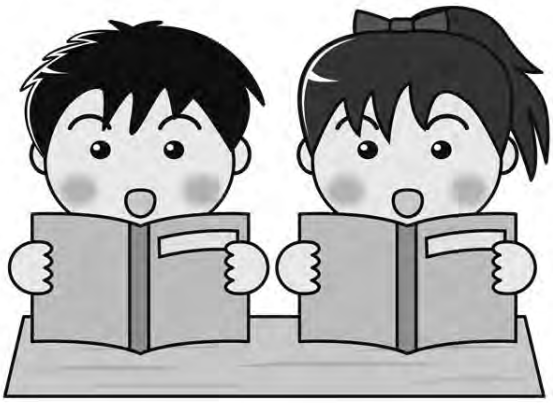
○現場の苦悩を吐露した記述例

★志願者の減少は，昨今の報道や世論を見ていると当然。世間の学校に対する風当たりの強さ，保護者からの様々な要求，自分自身胸を張って働きやすい職業だと言えない。システムを変えて，職員数を増やすなどしない限り，現状は改善しないのではないか。

★志願者減少の背景はブラックが大きな要因。実際に，家族との時間を割いて，保護者対応，休日のＰＴＡへの参加，様々なストレスに耐えながら働いている。休職者が出ても講師が見つからず現場は回らない。人材確保を切に願う。勤務環境の改善を図った上で，教職の喜びや生きがいを我々が伝えていく。

★教員の仕事量に偏りがあり不公平感がある。定数を増やすべきで，国全体で教育予算を増やし，手当などにすべし。教職の魅力はたくさんあるが，働き方改革という言葉が登場してから，やる人とやらない人で教員が二極化している。魅力だけではやっていけない。現状では若い人に教職のよさを語れない。

★再任用教員が都市部に集中していることから任用条件を検討し，新採用者が都市部に配属されるようにする。教職は，次世代の日本を創る夢と生産性に満ちた誇り高き職業。



Ⅲ章　調査を終えて

Ⅲ章　調査を終えて

本物のワークライフバランスを考えるときの到来

「なぜ，今，働き方改革なんだろう？」

この教育調査を手がけた時に，ふと浮かんだ疑問である。「先生たち，お茶を飲む暇もないもんなあ。」「年休を取るのは，少々遠慮があったなあ。」「給食を食べながら，連絡帳のお返事を書いていたなあ。」と，自分が担任だった頃を思い出し，「働き方改革」の促進は遅きに失した感があると思った。

そして，新型コロナウイルス対策による，令和元年度末の突然の休校。進級や卒業を控える児童生徒にとって一番大切な時期の休校。心身の成長や友達とのかかわりの喜びを再確認し，自分たちを育んでくれた周囲へ目を向け感謝の気持ちを新たにし，やがてくる春に向かって希望や期待をもつ時期の休校。児童生徒だけではなく，学校職員の戸惑いと不安も察するにあまりあった。

そして，やっと令和２年度がスタートし，学校に児童生徒の元気な声が響き始めたと思ったら，緊急事態宣言で再びの休校。

そのような緊急事態の最中で，にわかに脚光を浴びたのがテレワーク（ＩＣＴの活用によって時間や場所を選ばずに，柔軟な形態で働く勤務のこと）であった。学校現場に導入するのは難しいのではと思いきや，愛媛県西条市をはじめ，全国各地・各学校では既に軌道に乗っていたり，様々な工夫をしているという情報も得ている。また，兵庫県では，県立高校にデジタル採点システム（答案をスキャナーで読み込み，複数の生徒の同じ設問の回答を画面上に表示して正解と見比べて採点すると，一気に集計までしてくれる）が2020年から導入されるという。

他方，ミュージシャンの坂本龍一さんが，こんなことを言っている。

> 「前略・・・　僕たちの考え方や経済のあり方，文化のあり方が大きく変わるような気がしています。願わくば，行き過ぎたグローバリゼーションとか金融資本主義が少しずつスローダウンして，もっとゆとりのある，自分たちも自然の一部だということを感じられるような緩やかな世界になることを願っています。」

友達とおしゃべりをすること，楽しい飲み会を催すこと，家族と旅行に出かけること等々，当たり前だと思い込んでいたことが，本当はどんなに幸せなことか恵まれていることかを痛切に感じている今日この頃である。

ＩＣＴなんて自分には無理と決めつけ，また，他方，便利さに浸りきっていた自らの傲慢さを少々反省しているのは私ばかりではないだろう。

もしかしたら，今日までの自分を振り返り，本物のワークライフバランスを考える時なのかもしれない。本報告書が，そのきっかけの一つとなれば幸いである。

Ⅳ章　アンケート調査用紙

Ⅳ章　アンケート調査用紙

回答にあたってのお願い

① 各質問とも回答は選択肢の中から選び，別紙回答用紙に記入してください。
② 複数選択可の場合は，質問文の終わりに選択数を記入してあります。
③ 「その他」を選択した場合は，（　　）の中に具体的に書いてください。

Ⅰ　あなたの「年代」，「性別」，「勤務校」，「役職」，「校務分掌」についてお聞きします。

1　あなたの年代を聞かせてください。
　ア　２０代　　イ　３０代　　ウ　４０代　　エ　５０代　　オ　６０代

2　あなたの性別を聞かせてください。
　ア　男性　　イ　女性

3　あなたの勤務校について聞かせてください。
　（　）には学級数を記入してください。その他は，通級指導教室等の数を記入してください。
　ア　小学校　通常学級（　）　特別支援学級（　）その他（　）
　イ　中学校　通常学級（　）　特別支援学級（　）その他（　）
　ウ　特別支援学校　小学部学級（　）　中学部学級（　）　高等部学級（　）

4　あなたの役職について聞かせてください。
　ア　校長　　イ　教頭　　ウ　主幹教諭　　エ　教諭　　オ　養護教諭
　カ　栄養教諭　キ　事務職員（　　）←※（　）内は主査，主任，主事等を記入

5　あなたの主たる校務分掌について聞かせてください。（一つ選択）
　ア　教務主任　　イ　研究主任　　ウ　生徒指導主事　　エ　生活指導主任
　オ　学年主任　　カ　学級担任　　キ　進路指導主事　　ク　その他（　　）

Ⅱ　「働き方改革」とし，あなたの学校で，現在取り組んでいることを聞かせてください。（複数回答可）

1　学校業務の側面から

①　県・市町村全体で取り組んでいること

ア　勤務時間外の留守番電話の設定
イ　部活動休養日の設定
ウ　夏季・冬季の学校閉庁日の設定
エ　長期休業中・週休日の緊急連絡窓口（教委・管理職等）の設定
オ　学力・学習状況調査に係る業務の一部外部委託
カ　打ち合わせ・会議などでのＩＣＴ活用の促進
キ　市町村主催行事や学校行事等のあり方検討
ク　市町村全体の研究活動のあり方検討
ケ　校内研修効率化の呼びかけ
コ　その他（　　）

②　学校独自で取り組んでいること

ア　出退勤時刻の把握（出勤簿・タイムカード・パソコン・その他）
イ　学校日誌・旅行命令簿等のＩＴ化
ウ　勤務時間外の留守番電話の実施
エ　長期休業中・週休日の緊急連絡窓口（教委・管理職等）の実施
オ　職員の連絡先を公表しない
カ　ノー残業デーの実施
キ　部活動休養日の実施
ク　校内研修効率化の実施
ケ　打ち合わせ・会議などでのＩＣＴ活用の実施
コ　その他（　　）

2　チーム体制の側面から

①　県・市町村全体で取り組んでいること

学校をサポートするスタッフ等の配置

ア　部活動指導員
イ　理科支援員
ウ　学校カウンセラー
エ　学校司書
オ　スクールサポーター
カ　学習支援ボランティア
キ　特別支援対応支援員
ク　保健室支援員
ケ　日本語指導者
コ　地域教育コーディネーター
サ　その他（　　）

② 学校独自で取り組んでいること

ア　小学校高学年における一部教科担任制の導入

イ　学習ボランティアの活用（学習面の支援者）

ウ　学習ボランティアの活用（生活面の支援者）

エ　学習ボランティアの活用（学習面と生活面両方の支援者）

オ　学生ボランティアの活用

カ　保健室ボランティアの活用

キ　日本語ボランティアの活用

ク　図書館ボランティアの活用

ケ　部活動指導ボランティアの活用

コ　地域教育コーディネーター

サ　教員サポートの活用（例えば新潟市では「スマイルウインズ」）

シ　その他（　　）

3　教職員の意識改革の側面から

ア　「働き方改革」についての学校経営方針への位置付け

イ　「働き方改革」に関する研修（内容：　　）

ウ　年休取得の推進（方法：　　）

エ　メンタルヘルスセルフチェックの実施

オ　その他（　　）

Ⅲ　業務の役割分担を認識していますか。

「学校における働き方改革に関する緊急対策　H29.12.26　文部科学大臣決定」

基本的には学校以外が担うべき業務	学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務	教師の業務だが、負担軽減が可能な業務
①登下校に関する対応 ②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応 ③学校徴収金の徴収・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整 ※ その業務の内容に応じて，地方公共団体や教育委員会，保護者，地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等が担うべき。	⑤調査・統計等への回答等（事務職員等） ⑥児童生徒の休み時間における対応（輪番、地域ボランティア等） ⑦校内清掃（輪番、地域ボランティア等） ⑧部活動（部活動指導員等） 部活動の設置・運営は法令上の義務ではないが，ほとんどの中学・高校で設置。多くの教師が顧問を担わざるを得ない実態。	⑨給食時の対応（学級担任と栄養教諭等との連携等） ⑩授業準備（補助的業務へのサポートスタッフの参画等） ⑪学習評価や成績処理（補助的業務へのサポートスタッフの参画等） ⑫学校行事の準備・運営（事務職員等との連携、一部外部委託等） ⑬進路指導（事務職員や外部人材との連携・協力等） ⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応（専門スタッフとの連携・協力等）

※詳細については文部科学省のホームページ

「学校における働き方改革に関する緊急対策について」を参照してください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/12/1399949.htm

1　あなたは文部科学省の**「学校における働き方改革に関する緊急対策」**が示す業務の役割分担を認識していますか。

ア　認識している　　イ　認識していない

2　あなたの学校の現状について教えてください。

次の業務は，**基本的には学校以外が担うべき業務**とされていますが，あなたの学校で担っている業務を記入してください。(複数回答可)

ア　登下校時の安全に関する対応

イ　放課後から夜間における見回り，児童生徒が補導された時の対応

ウ　学校徴収金の徴収・管理

エ　地域ボランティアとの連絡調整

3　学校以外が担っている場合，どこが担っているか聞かせてください。

ア　登下校に関する対応　（　　）

イ　放課後から夜間における見回り，児童生徒が補導された時の対応

（　　）

ウ　学校徴収金の徴収・管理（　　）

エ　地域ボランティアとの連絡調整（　　）

4　次の業務は，**学校の業務だが，必ずしも教師が担う必要のない業務**とされています。あなたの学校では，**主として**どこが(誰が)担っているか記入してください。

①　調査・統計等への回答等

ア　教師　イ事務職員　ウ管理職　エ　地域ボランティア

オ　その他（　　）

②　児童生徒の休み時間における対応

ア　管理職　イ　教師の輪番　ウ　地域ボランティア

エ　その他（　　）

③　校内清掃

ア　児童生徒　イ　教師　ウ　業者　エ　地域ボランティア

オ　その他（　　）

④　部活動

ア　教師　イ　部活動指導員　ウ　地域ボランティア

エ　その他（　　）

5　次の業務は，**教師の業務だが，負担軽減が可能な業務**とされています。

あなたの学校では，どこが(誰が)担っているか記入してください。(複数回答可)

①　給食時の対応

ア　学級担任　イ　栄養教諭　ウ　保護者

エ　地域ボランティア　オ　その他（　　）

② アレルギーチェック
ア　学級担任　イ　栄養教諭　ウ　養護教諭　エ　保護者
オ　地域ボランティア　カ　その他（　　）

③ 授業準備
ア　理科支援員　イ　地域ボランティア　ウ　小・中連携［外国語］
エ　学級担任　　オ　その他（　　）

④ 学習評価や成績処理
ア　一部外部委託　イ　学級担任　ウ　その他（　　）

⑤ 学校行事の準備・運営
ア　保護者　イ　地域ボランティア　ウ　一部外部委託
エ　学級担任　オ　その他（　　）

⑥ 進路指導
ア　地域ボランティア
イ　ＮＰＯ団体
ウ　学級担任
エ　その他（　　）

⑦ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応
ア　地域ボランティア
イ　学生ボランティア
ウ　専門機関
エ　学級担任
オ　その他（　　）

Ⅳ　年次有給休暇(以下年休）について聞かせてください。

１　あなたの平成３０年度の年休取得数は何日ですか。(端数切り上げ)
ア　０日　イ　１～５日　　ウ　６～１０日　　エ　１０～１５日
オ　１６～２０日　　カ　２０日以上

２　授業日に年休を取得しやすいと感じていますか。
ア　感じている（①へ進んでください。）　イ　感じていない（②へ進んでください。）

①　授業日に取得しやすいと感じている理由（複数回答可）

ア　管理職が日常的に年休取得を促している。

イ　担任している学級が空きにならないようなシステムがある。

ウ　校内の協力体制（自習監督等）ができている。

エ　校内に「お互い様」「助け合う」雰囲気がある。

オ　その他（　　）

②　授業日に取得しやすいと感じていない理由（複数回答可）

ア　管理職に言い出しにくい雰囲気がある。

イ　担任している学級が留守になる不安がある。

ウ　校内に「お互い様」「助け合う」雰囲気がない。

エ　迷惑をかけたくない。

オ　他の職員があまり取得していない。

カ　その他（　　）

3　長期休業日に年休を取得しやすいと感じていますか。

ア　感じている（①へ進んでください。）

イ　感じていない（②へ進んでください。）

①　長期休業日に取得しやすいと感じている理由（複数回答可）

ア　研修や会議が精選されている。

イ　管理職が自ら年休取得モデルとなっている。

ウ　学校の「長期休業の意義」について，保護者や地域への説明や広報が確実になされている。

エ　その他（　　）

②　長期休業日に取得しやすいと感じていない理由（複数回答可）

ア　研修や会議がある。

イ　管理職に言い出しにくい雰囲気がある。

ウ　保護者や地域からの理解が得られていない。

エ　その他（　　）

Ⅴ　日々の生活の質や教員人生が豊かだと感じていますか。

1　ア　感じている（２へ進んでください。）　イ　感じていない（３へ進んでください。）

2　「ア　感じている」と回答した人にお聞きします。

①　そのために何かに取り組んでいますか。

ア　取り組んでいる（②へ進んでください。）

イ　取り組んでいない（③へ進んでください。）

② 取り組んでいる人はア～モの当てはまるものを記入してください。(複数回答可)

ア 旅行　イ 登山　ウ キャンプ　エ ドライブ　オ ウオーキング
カ ゴルフ　キ テニス　ク 野球　ケ 水泳　コ 卓球
サ 自転車　シ マラソン　ス 映画　セ 音楽　ソ 料理
タ 読書　チ 絵画　ツ 陶芸　テ 盆栽　ト 家庭菜園
ナ 花づくり　ニ 書道　ヌ 華道　ネ 茶道　ノ 食べ歩き
ハ 居酒屋探訪　ヒ ゲーム　フ SNS　ヘ 資産運用　ホ 地域活動
マ 趣味の教室　ミ ボランティア活動　ム パチンコ・パチスロ
メ 公営ギャンブル（競馬・競輪等）　モ その他（　　）

※SNS：フェイスブック・ツイッター等

③ 取り組んでいない人はア，イの当てはまるものを記入してください。

ア 何もしないことを楽しんでいる。　イ その他（　　）

3 「イ 感じていない」と回答した人にお聞きします。ア～カの当てはまるものを記入してください。 (複数回答可)

ア 時間がなくて何もできない。
イ 仕事で疲れ切って何をする気もおこらない。
ウ 家族の介護などで時間をとられる。
エ やるための金銭的な余裕がない。
オ やるための精神的な余裕がない。
カ その他（　　）

Ⅵ ストレスケアのためにやっていることがありますか。

1 学校でやっていることは何ですか。当てはまるものを記入してください。
(複数回答可)

ア 同僚などと会話をする。
イ 仕事の合間に一服する時間をもつ。
ウ 机周りに自分の趣味の小物を置く。
エ 余裕のないときは「断る」勇気をもつ。
オ 休憩時間を有効に使う。(散歩・仮眠等)
カ その他（　　）

2 学校で特にやっていない人はその理由を記入してください。(複数回答可)

ア 特にストレスを感じていない。
イ 自分のために使う時間がない。
ウ 気持ち的にゆとりがない。
エ その他（　　）

3　家庭でやっていることは何ですか。当てはまるものを記入してください。
（複数回答可）

ア　生活のリズムを整えている。（食生活，睡眠時間等）
イ　家族や友人との会話。
ウ　ランチや飲み会を行う。
エ　自分優先の日をつくり，やりたいことをやる。
オ　動物飼育。
カ　趣味（　　）＊具体的に記入してください。
キ　その他（　　）

4　家庭で特にやっていない人はその理由を記入してください。（複数回答可）

ア　特にストレスを感じていない。
イ　自分のために使う時間がない。
ウ　気持ちにゆとりがない。
エ　その他（　　）

Ⅶ　教員志願者が減少している昨今を，あなたはどう考えますか？。

小学校は昨年度、県は１.２倍で全国最下位，市は１.８倍で政令市最下位でした。あなたは，新潟県・新潟市の現状をどのように受け止めていますか。また，このような現状で，教員志願者を増やすために，若い人たち（若い教員，教員を目指す若い人たち）にどう語りかけていきたいですか。

ご多用の中，ご協力ありがとうございました。
本調査についてご意見のある方は，下記にお書きください。

＜参考文献：資料＞

横山信弘 「今日からできる仕事革命　脱会議」　日経ＢＰ社

吉田和夫 「なぜあの学校は活力に満ちているのか？」　東洋館出版社

永堀宏美 「保護者トラブルを生まない学校経営を保護者の目線で考えました」
教育開発研究所

小野田正利「普通の教師が普通に生きる学校　モンスターペアレント論を超えて」
時事通信社

志水宏吉 「『力のある学校』の探究」　大阪大学出版会

藤原和博 「藤原和博の『創造的』学校マネジメント講座」　教育開発研究所

澤田真由美　先生の幸せ研究所 「必要なことに必要な時間をかけるために」

新潟市教育委員会　働き方改革リーフレット

さいたま市学校業務改善ハンドブック　令和元年度版

「ＯＥＣＤ国際教員指導環境調査（ＴＡＬＩＳ） 2013年調査結果の要約」
国立教育政策研究所編

「教員勤務実態調査」　2016年　文部科学省

「学校における働き方改革に関する緊急対策」　2017年　文部科学省
具体的な取組として「学校が担うべき業務のあり方」

「新しい時代の教育に向けた持続可能な学習指導・運営体制の構築のための
学校における働き方改革に関する総合的な方針について（答申）」
2019年　文部科学省

「教育課程ＭＡＹ2020」　共同出版

新潟教育研究所　教育調査の紹介

第１回　２００９年

校内研修に関する教員の意識調査
－校内研修の現状と課題－　（小学校編）

第２回　２０１０年

校内研修に関する教員の意識調査
－校内研修の現状と課題－　（中学校編）

第３回　２０１１年

「全国学力・学習状況調査」の取組に関する調査
－調査を生かして学校を変える－　（小学校編）

第４回　２０１２年

小中学校教員の勤務に関する意識及び実態調査
－多忙化を解消し教育を充実させる－

第５回　２０１４年

新教育課程の実施上調査
－ベネッセ教育開発センターの全国調査との
比較から見えてきたもの－　（小学校編）

第６回　２０１６年

校内研修に関する教員の意識調査
－校内研修の現状と課題－　（小学校・中学校）

第７回　２０１８年

小中学校教員の勤務に関する意識及び実態調査
－多忙化を解消し教育を充実させる－　（小学校・中学校）

第８回　２０２０年

小・中・特別支援学校職員の働き方に関する意識及び実態調査
－これからのワークライフバランスを考える－　（小・中・特別支援学校）

2020年６月４日　発行

発行者　濱　中　力　也

執筆者　宮　川　由美子
　　樋　口　光　栄

発行所　公益財団法人 新潟教育会　新潟教育研究所
〒951-8104
新潟県新潟市中央区西大畑町590-３　教育会館
TEL　025-222-2971
URL　http：//kyouikukai.jp
Eメール　kenkyujo@kyouikukai.jp

印刷所　（株）文　久　堂
新潟市中央区新島町通四ノ町2242-乙
TEL　025-211-4011（代）